

『環境と成長の両立を地方から考える』

～沖永良部から始まる あたらしい暮らし方のか・た・ち



失ってはならないこの島の『か・た・ち』とは？
環境（地球環境）と成長（心豊かな暮らし）の両立イコール持続可能な社会を創成するために、私たちは具体的に何を考え、何をしなければならないのか。12月22日に知名町フローラル館で開催された「第5回沖永良部シンポジウム『環境と成長の両立を地方から考える』」では、このことについて多くの有識者から貴重な提言をいただきました。一部を紹介します。

基調講演

コウノトリと共に生きるー豊岡の挑戦ー

兵庫県豊岡市 市長 中貝宗治氏

コウノトリは、かつては日本の各地で見られる鳥でした。しかし、戦後の環境破壊等によつて、数を減らしていききました。とどめを刺したのは「農業」です。

絶滅の前にコウノトリを守ろうと1965年から人口飼育が始まりました。しかし最初の24年間で、来る年も来る年も1羽のヒナもかえりませんでした。人工飼育の日から実に25年目の春（平成元年）に待望のヒナが誕生しました。野生からの絶滅から43年、人工飼育の開始から49年、豊岡でコウノトリの保護活動がおき

てから59年になります。なぜ、これまでして豊岡の空にコウノトリをかせようとしたのか。狙いは大きく3つあります。1つは、人間とコウノトリの約束を守ろうということ。（人口飼育を始めた当時の人々はコウノトリを）「もう一度空にかえす。」と誓いました。2つ目は、絶滅寸前の野生生物の保護に関

して世界的な貢献。3つ目。「コウノトリを空にかえす」を合い言葉にして、コウノトリ『も』住める豊かな自然環境と文化環境をもう一度作り上げようというのが、最大の狙いです。

豊岡市で新たに開きつつある扉が『環境経済戦略』です。環境を良くする行動によつて経済を活性化させる。そのことが誘因となつて環境行動がさらに広がる。環境と経済が共鳴する関係を「環境経済」と名付けて、私たちはそれを広げる努力をしています。

（豊岡市で実施している）環境経済事業の定義は、まずは利益を追求すること。そのことによつて環境が改善されることが条件です。豊岡市ではこれまでに（農業を除く）45の事業を豊岡市環境経済事業として認定をしてきました。

豊岡市の工業の全体の出荷額は1054億円です。45の環境経済事業のうち工業は11事業ありまして、そ

の売上げの総額は、116億円です。豊岡の工業の11%は環境を良くするという工業が支えています。農業も重要です。コウノトリにとどめを刺したのが農業でした。そこで、（市と関係団体で）農業に頼らない、コウノトリを育む農法を開発しました。（この農法で作られたお米は）減農薬タイプで通常の店頭価格より6割から7割高く、無農薬タイプでは10割近く高く売られています。環境にいい商品を作ると儲かるという仕組みが、できあがつて参りました。

『環境と経済が共鳴』するような地域を創りあげる！

